

令和4年度

病害虫発生予察情報

第 13 号

注意報第5号

北海道病害虫防除所 令和4年(2022年)8月1日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

水稻のアカヒゲホソミドリカスミカメ多発が継続

高温経過で加害が活発化の恐れ！

発生モニタリングを励行し、適切に追加防除を実施しよう

アカヒゲホソミドリカスミカメは、斑点米発生の主原因となるカメムシです。主に水稻の出穂以降に畦畔や雑草地などから第2回成虫が水田内に侵入します。その後、水田内では第2回成虫や第3回幼虫・成虫が籾から吸汁加害して斑点米を発生させます。

本年は、予察灯及び予察田畦畔すくい取りにおける成虫の発生が、長沼町、比布町、北斗市いずれの地点においても平年より多く経過したことから、7月15日付け注意報第4号を発表し、出穂期からの基幹防除ならびに以降の追加防除の適切な実施を呼びかけたところです。その後も、予察灯及び予察田畦畔すくい取りによる本種成虫の発生量は平年より多く推移しており、本田すくい取り及びフェロモントラップにおいても平年より多くの成虫が水田内へ侵入していることが確認されています。また、一般田における巡回調査では、7月3半旬の畦畔すくい取り調査において成虫の多捕獲が認められています。

札幌管区气象台発表の7月28日付け1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予報されています。このことから、今後、水田内への侵入活動、水田内における加害活動ともに活発化することが危惧されます。

以上のことから、基幹防除実施以降の追加防除は、例年に増して重要であると考えられます。水田内のすくい取りやフェロモントラップによるモニタリングを励行し、適切な茎葉散布による防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯における成虫誘殺数は、比布町で平年よりやや少なく推移しているものの長沼町及び北斗市では平年より多く誘殺されている(表1)。
- (2) 予察田畦畔におけるすくい取り成虫数は、長沼町及び北斗市で平年より多く、比布町では平年並に推移している。水田内におけるすくい取り成虫数は、いずれの地点においても平年より多く推移している(表2)。
- (3) 予察田畦畔におけるフェロモントラップ誘殺数は、北斗市で平年よりやや少なく推移しているものの、長沼町及び比布町では平年より多く捕獲されている。水田内におけるフェロモントラップ誘殺数は、いずれの地点においても平年より多く推移している(表3)。
- (4) 一般田における7月3半旬の巡回調査では、74地点のうち空知及び上川地方の合計3地点で、畦畔すくい取り調査での第2回成虫捕獲頭数において多発生の目安となる23頭を超えていた。
- (5) 7月28日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予報されている。

4. 防除対策

(1) 基幹防除に引き続き、以下のとおり発生モニタリングを行い、追加防除の要否を判断する。

- ① 基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「ゆめぴりか」、「きらら397」では2頭、「ななつぼし」、「ほしのゆめ」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。その後も、上記水準を下回るまで、7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。
- ② 上記基準は、出穂7日後以降7日間ごとのフェロモントラップによる合計捕獲虫数（同一区域内に設置した複数トラップによる平均捕獲頭数）では、「きらら397」は2.2頭、「ほしのゆめ」は1.2頭に相当する。
- ③ ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤Fを使用し、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布とした場合も、散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行い、上記に準じて追加防除を実施する。
- ④ 基幹防除に水面施用を実施した場合には、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。

(2) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯による成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	36	5.3	0	1.6	183	8.7
2半旬	106	20.3	3	1.2	192	10.6
3半旬	543	164.5	0	7.9	67	30.2
4半旬	3670	323.8	11	21.2	229	108.2
平年数	10		10		10	

表2 予察田におけるすくい取り成虫数^{注)}

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	水田		畦畔		水田		畦畔		水田		畦畔	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2.5	0.0	40.0	2.0	0	0.0	0	0.6	2.5	1.0	7.5	1.3
2半旬	0	0.0	37.5	2.0	0	0.0	0	0.3	0	0.3	0	0.3
3半旬	0	0.0	5.0	1.4	0	1.0	2.5	0.5	7.5	0.0	0	1.0
4半旬	10.0	0.9	77.5	4.1	30.0	2.5	0	5.0	0	0.3	5.0	1.5
5半旬	40.0	1.4	110.0	7.1	15.0	1.3	2.5	2.5	0	1.8	5.0	4.8
平年数	10				10				10			

注) 20回振りすくい取り5日当たり換算頭数

表3 予察田におけるフェロモントラップ誘殺数^{注)}

月・半旬	長沼町				比布町				北斗市			
	水田		畦畔		水田		畦畔		水田		畦畔	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.9	21	5.8	1	0.9	0	0.2	21	4.4	3	0.7
2半旬	7	1.0	24	4.6	1	1.4	0	0.2	9	3.6	0	1.4
3半旬	5	2.0	12	5.4	10	1.8	2	0.8	8	5.0	0	1.9
4半旬	0	3.9	17	9.4	15	2.9	7	1.8	2	4.1	0	1.9
5半旬	4	3.6	10	17.0	5	10.8	14	2.6	8	7.0	1	3.3
平年数	10				10				10			

付記

北海道地方 1か月予報
(7月30日から8月29日までの天候見通し)

令和4年7月28日
札幌管区気象台発表

<予想される向こう1か月の気候>

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、北海道日本海側及び太平洋側で高い確率80%、オホーツク海側で高い確率60%です。2週目は、北海道太平洋側で高い確率70%、日本海側及びオホーツク海側で高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 北海道地方	10	20	70
【降水量】 北海道地方	30	40	30
【日照時間】 北海道地方	30	40	30

■低い(少ない) □平年並 ■高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 北海道地方日本海側	10	10	80
北海道地方オホーツク海側	10	30	60
北海道地方太平洋側	10	10	80
2週目 北海道地方日本海側	10	30	60
北海道地方オホーツク海側	10	30	60
北海道地方太平洋側	10	20	70
3～4週目 北海道地方	20	30	50

■低い □平年並 ■高い